第210号
発行所 千教組長生支部
発行者 木村大樹
編集 情宣部
印刷所 小路印刷所

時代とともに

文化部長 町野光彦

先日、国語で「論語」を取り上げたとき、子どもたちから「2500年前の人が言ったことが、現代の人にも通じるなんてすごいね」「昔の人も、今の人も、生き方や考え方は変わらないんだね」「論語を勉強する理由がわかるね」と、言う声があがりました。

一方でGIGAスクール構想を機に、一人一台ずつ配付されたタブレット端末を活用して行なった算数の授業では、「タブレットがあって、分かりやすかった」「簡単に修正できるから、間違えを怖がらずにできた」「もっと前からタブレットがあればよかった」などの声もあがります。昔の人と同じことを学ぶ一方で、最新の機器を使って授業をする現代の子どもたちは、この大きな変化に、柔軟に対応しているように感じた場面でした。

本年度の教育講演会は、三年ぶりの開催となりましたが、今までと違うオンラインという形でした。皆さんは、どのように感じられたでしょうか？「会場で直接聞きたかった」や「オンラインで気楽に見られて良かった」など、いろいろな考えがあると思います。それぞれに良いところがあり、課題となるところもあると思いますので、組合にたくさんのご意見をあげてほしいと思います。皆さんの声から、時代や環境にあった選択をできるようにしていければと思います。

子どもの吸収力や柔軟な考え方には、ときどき驚かされることがあります。私たち教職員も、今までの実践の良いところは引き継ぎ、変えなくてはいけないところは変え、新しい時代の流れに順応していく力が求められていると思います。こうしなければダメということはありません。様々な角度や視点で考え、いろいろな方法を取り入れていきましょう。

一人でできることには、限りがあります。しかし、ともに学ぶ者がいれば、可能性は無限大に広がります。私たちの周りには、いろいろなことに気付かせてくれる子どもたちがいます。困ったときに相談に乗ってくれる仲間がいます。そんな、ともに学べるところが組合だと思います。たくさんの組合員の方の英知を集結し、子どもたちが安心して学べる環境をつくるとともに、私たち教職員が安心して学べる環境をつくっていければと思います。

今、急激な流れによって、大きく時代が変わる「疾風怒濤」の時代であります。この時代の流れを私たちでつくり、子どもたちに大きな財産を残していけるよう、ともに頑張りましょう。

第72次千葉県教育研究集会

十一月五日(土)、第72次千葉県教育研究集会が、オンラインにて開催されました。

第2分科会 外国語教育（中学校）

石井 千紘（白子中）

「世界平和のため共生できる真の国際人を育てる外国語教育」という研究主題のもと、19本の提案がありました。ICTを活用した授業や、指導と評価の一体化をめざした指導法とりくみなど、様々な指導法を学ぶことができました。どの提案も熱意が感じられ、刺激のある有意義な時間となりました。今後の教育実践に生かしていきたいと思います。

第4分科会 数学教育（小学校）

吉田 羊介（日吉小）

「単元構成の工夫」「数学的活動の楽しさや数学のよさが味わえる指導のあり方」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の工夫」「子どもが主体の授業になるための指導のあり方」を討議の柱として、9本の提案が行われました。活発な意見交換が行われ、ICTの活用やワークシートの工夫など、様々な手立てを学ぶことができました。今回の提案内容で学んだことを、今後の教育実践に生かし、広めていきたいと思います。

第5分科会 理科教育（中学校）

江口 隆亮（富士見中）

「生徒の意欲・関心を引き出すための指導と評価のあり方」「教材・教具を活用した効果的な指導のあり方」「身近な自然を生かした指導及び環境問題に対する指導のあり方」を討議の柱として10本の提案がありました。地域の特徴を生かした教材やICT機器を有効に活用した実践など、理科の指導方法について学ぶことができました。オンラインでの提案となりましたが、理科教育について考える有意義な時間になりました。

第8分科会 技術・家庭科教育（家庭科教育）

御園 綾香（長南中）

「命と暮らしを学び、生きる力を育てる家庭科教育はどうあるべきか」という研究主題のもと、「生活者として自立できる人間を育てるための指導法」「生活を見つめ、課題を発見し、解決する学習指導」の2つを討議の柱として、活発な意見交換が行われました。実態に応じた指導方法の工夫やICTの活用など、大変勉強になりました。今後の授業実践に生かしていきたいです。

第9分科会 保健・体育（保健）

木原 なつみ（睦沢小）

「児童・生徒が生命を尊び、健康について主体的に考え行動できる力を養う健康教育はどうあるべきか」を研究主題に9本の提案がありました。コロナ禍の現在、子どもたちが、安心・安全に学校生活を送れるために、養護教諭に求められることは多岐にわたります。日々の執務に役立つ研究が多く、情報交換ができ、有意義な時間となりました。

第19分科会 民主的学校づくり

西郡 拓郎（一宮小）

「子どもを主体とした教育実践をするために、ゆとりある民主的な職場をつくるには、どのようにしたらよいか」を研究主題として、6本の提案がありました。どの提案も現代の教育現場における働き方改革に着目した提案であり、職場の人間関係づくりのよい参考となりました。すべては子どもたちのために。その思いを忘れず、今後に繋げたいです。

第25分科会 食教育

石井 陽子（萩原小）

「児童・生徒が生涯を通じて自らの健康を考え、食について主体的・実践的な能力を養うためにはどのように食教育を行うべきか」という研究主題のもと、6本の提案がありました。子どもたちを取り巻く食に関する課題が多くある中で、地域の実態に応じた実践報告があり、多様な指導法を学ぶことができました。今後の教育実践に生かしていきたいです。

日教組第七十二次教育研究全国集会に参加される先生方（敬称略）

正会員（リポーター）

○日本語教育（作文・話しことば）
長島 大地（東部小）

○自治的諸活動と生活指導（中学校）
岡澤 尚樹（長柄中）

正会員

○総合学習と防災・減災教育、いのち・共生の視点から等
大島 梓（茂原中）

みんなの夢を応援する"千葉教弘"
教弘保険で 自助・共助・公助
自助：教弘保険,まなびやなどを自分のために
共助：人間ドック,宿泊施設補助などで助け合いを
公助：奨学金,学校研究助成金などは教育振興に
※各事業の詳細は"千葉教弘"で検索を！
公益財団法人日本教育公務員弘済会千葉支部
株式会社千葉教弘 TEL:0120(10)8851

千葉県学校生活協同組合
〒260-0013 千葉市中央区中央4-13-10 千葉県教育会館新館6階
☎0120−24−6294 FAX0120−55−2130
千葉県学生協は組合員一人ひとりが「出資者」であり「利用者」であり「運営者」です。
みんなの参加が学生協を育てます。
加入 利用 運営
学生協の加入は「一度だけ1,500円」出資するだけ。組合員になることのデメリットは一切ありません。脱退時、剰余分を含め「全額」が返金されます。この機会に、学生協へ加入しましょう。
http://www.jcgsk.com

みなさまの暮らしのパートナー 教職員共済
総合共済を基幹に、8共済で万一に備えています。
・総合共済　・団体生命・医療共済
・火災＋自然災害共済　・新・終身共済
・自動車共済　・車両共済
・年金共済　・交通災害共済
—— 教職員共済千葉県支部 ——
千葉県教育会館新館7Ｆ ☎043(224)3701

カムバックセミナーに参加して

女性部副部長　大塚久美子

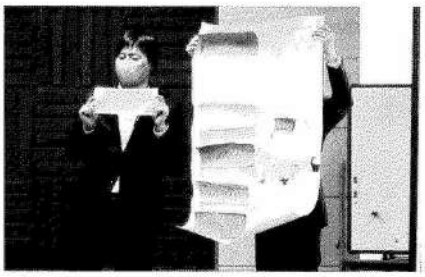
十月二十九日（土）長生教育会館において「カムバックセミナー」がオンラインで開催されました。はじめに、女性部長から「仕事復帰＆子育て」を両立するために活用できる権利を子どもの年齢別に詳しくまとめた表をもとに講話がありました。事務職員の立場からも本納小分会の芝﨑先生から育休の取り方が延長するだけでなく、復帰後に再び育児休暇を取ることができるという、わかりやすいお話を伺いました。次に、「経験者から学ぶ育児と仕事の両立」では、本年度復帰された萩原小分会の西郡先生から、保育施設や病児保育をニーズに応じて利用して、安心して働く時間を確保するという、核家族には目からうろこの講話を伺いました。また、日吉小分会の海野先生からは、我が子との時間を大切に過ごすためにも、職場や自分の親を味方にすることや育児時間（育児休暇）の取得をすることの重要性が伝えられました。これから復帰して働く母親が、我が子とクラスの子どもたちと良い関係でいられるために役にたつ、素晴らしい講話でした。

意見交換の場では、「自分の家族を大切にできる人は、職場で良い仕事ができる」という話に共感しました。肩の力を抜いて、周囲の人に頼ってみましょう。そして、元気な顔で子どもたちの前に立ちましょう。オンライン開催でしたが、とても実りあるセミナーとなりました。

青年部活動のご報告

青年部副部長　片岡　広一

今年度の長生支部青年部のスローガンは「with～共に考え・共に学び・共に支え合おう～」です。このスローガンをもとに、仲間づくりをしたり、学習会を開催したりしています。



青年部教職員の力量向上をめざして、一人ひとりの声をもとに学習会を開催いたしました。

十月には、一宮小分会の石井久貴先生を講師に招き、プログラミング的思考の指導方法について、ご教授いただきました。プログラミングが必修化されましたが、指導のしかたや学習の進め方などを知りたいという青年部教職員の声を受けて、タブレットを使用しないでグループ協議で行いました。参加者からは、「プログラミングはむずかしく考えていましたが、日々の学級経営の中でプログラミング的思考を使っていることに驚きました」という声がありました。

七月に、株式会社ＡＯＫＩの本郷様をお招きし、クールビズにおけるスーツの着こなしやマナーについてご教授いただきました。研修会や保護者との面談などでスーツを着用することがあります。クールビズは着こなしが難しい印象ですが、色の組み合わせやシャツの形状で大きく見た目が変わることを学びました。参加者からは「改めて身だしなみについて考えることができ本当に良かった」という声がありました。

これからも長生支部青年部では、皆さんのニーズに応え、より良い学習会を企画していこうと思います。

オンライン

長生教育研究集会　教育講演会

「報道現場から見た学校運営のありかた」　フリーアナウンサー　笠井信輔　さん

「報道の力を活用して」

南中分会　三橋　一真

「教員の常識、世間の非常識」と揶揄されがちなこの仕事で、笠井アナウンサーから報道現場の視点から見た学校の姿を聴くことができ、自分の視野がさらに広がった気がします。防災教育についての話も興味深く聴くことができました。私たちが日々接していく生徒たちは物心つく前に東日本大震災を経験したため津波の恐ろしさや地震の恐ろしさを「本当に」理解しているか分かりません。使いどころを考えて、報道の力も活用して生徒を育てていきたいと思いました。

「行動力を大切に」

長柄小分会　伊藤　佳恵

自分が動くこと、立場が変わっても、初心を忘れずに現場に行きリポートするその行動力がとても大切だと教えていただきました。防災マップは、特に心に響きました。東日本大震災が起こった当時、小学生だった私は、守られる側から守る側になり、意識を高めていかなくてはならないと強く実感しました。長柄町は、海はありませんが大雨で土砂崩れが起きたことがあるので、そういったときにどのように行動したらよいのか、念入りに確かめておきたいと思います。

「危機感」

八積小分会　三橋遼太郎

２０１１年３月１１日、当時５年生だった私は激しく揺れる教室でただ怯えていました。凄惨な映像の数々は脳裏に焼き付いています。しかしながら、震災地の最前線で現場を見てきた笠井氏の語りからは、東日本大震災の恐怖を知っているはずの人間がまた同じ過去を繰り返すつもりなのか？という強いメッセージを感じ、たった１１年間で危機感が薄れていることを痛感しました。教員として、子どもたちの未来のために、担っている役割を果たしていこうと思います。

「真摯な対応を心掛ける」

睦沢小分会　佐藤　章雄

「素直に謝ること」「言い訳をしないこと」「次の対策を考えること」の三つが学校危機を救う大切なことであると感じました。管理職だけでなく、私たち担任も第三者から見て、真摯な児童生徒対応や保護者対応を心掛けることで、互いの信頼関係が生まれてくると改めて考えさせられました。もしも、間違ったことをしてしまったら、「第三者からは今、どう見られているか」といった他者目線を少しでも意識した真摯な対応を心掛けたいです。

「自覚と責任」

長南小分会　小原　歩美

「ニュースを報道する」という別の立場の方の講演は、私にとって大変衝撃的なものでした。取材の対応一つ一つに、細かい配慮や温かい心遣いがなされていること、同時にそれらが報道するという立場の自覚や責任であるという強い意識を感じました。これは、子どもや保護者、地域の方に接する私たちの立場と共通するものです。一人一人の声にしっかりと耳を傾け、真摯に受け止め対応していくことの大切さを改めて考える良い機会となりました。

「覚悟をもって」

関小分会　菅野　知子

人と向き合う仕事をしている私たちにとって、「職務に覚悟をもつ」という言葉は深く鋭く心に刺さるものでした。子どもにも大人にも、相手を慮った対応をしていくことの重要性をあらためて確認しました。私たちの『覚悟と行動で事態が変わってくる』笠井さんの優しい語り口の中にある力強さは「がんばれ！」と背中を押してくれているようでした。

「今そこにある危機管理」

東浪見小分会　古内　忠広

笠井信輔さんのお話は、次から次へと、私たち教員の耳が痛くなることばかりでした。確かに、私たちは、いじめ防止や安全管理に手を抜いているつもりはありません。しかし、笠井さんが携わってきた、事件や事故が発生しています。だからこそ、常に危機管理を怠らず、子どもたちの命を預かっている立場であることを肝に銘じ、９月から子どもたちを迎えたいと思いました。